

| | | | |
|---|--|---------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 臨床心理学特殊研究 (4 単位) | 3. 科目番号 | PSMP7236 |
| 2. 授業担当教員 | 鶴 光代 | | |
| 4. 授業形態 | 講義と演習 | 5. 開講学期 | 通年 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | | |
| 7. 講義概要 | 臨床心理学における主要な心理支援アプローチについて、その背景となる考え方や理論の理解を通して、それぞれのアプローチに伴う問題や課題を明らかにする。 自己の研究テーマを臨床心理学的研究方法や基礎的研究との繋がりから捉え、実証的に発展させていくために必要な諸理論、諸技法を展開する。 臨床心理学の研究における研究倫理について理解を深め、その態度を養うことを目指す。 | | |
| 8. 学習目標 | 1. 臨床心理学上の問題や課題について理解し、自らが研究テーマとする領域の問題や課題を明らかにする。 2. 心理臨床と基礎研究との繋がりを理解し、質の高い研究および実践を行うための力量を身につける。 3. 将来、臨床心理学分野の研究者、指導者になるために、この分野での幅広い知識を習得して、研究、実践、指導ができるようになることを目指す。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 1. 内外の文献を読んで、研究発表を行い、討議するための準備をおこなう。 2. 諸アプローチについて、概要をまとめ、問題点をレポートする。 3. 自己の研究テーマに関わる文献を収集し、そこから得られた重要事項を多角的に関連付けてまとめる。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】特になし。 【参考書】『臨床心理学史』サトウタツヤ著 東大出版会 2021 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 臨床心理学に関する実証的研究論文、各種心理療法、カウンセリング法についての研究論文をレポートにまとめ、臨床心理学上の問題を説明した。 臨床心理学上の問題を通して、自らの研究課題を明確にする力、および研究を実践していく力を身につけた。 ○評定の方法 研究発表・討議内容 50%、レポート 50% | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 1. 研究者や指導者になるための研究力を身につける。 2. 研究論文を作成し、学会で発表する。研究雑誌に投稿する。 | | |
| 13. オフィスアワー | 木曜日 10:30~11:30 | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | |
| 1~5. テーマ | 研究テーマの検討と研究倫理 | | |
| 【学習の目標】 | 臨床心理学研究のなかでの、自らの研究テーマの立ち位置と研究倫理を明確にする。 | | |
| 【学習の内容】 | これまでの自己の研究を基に、臨床心理学研究における問題、課題を明らかにする。研究倫理を体験的に学ぶ。 | | |
| 【キーワード】 | エビデンスベースド、ナラティブベースド、臨床心理学のアカウンタビリティ、研究倫理 e ラーニング | | |
| 【学習の課題】 | 自らのテーマに関する資料を基に、研究上の問題、課題を分析する。 | | |
| 【参考文献】 | その都度提示する。 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 資料を精査し、積極的に討議すること。 | | |
| 6~10. テーマ | 人間性心理学からのアプローチ | | |
| 【学習の目標】 | 人間性心理学の考え方、アプローチ、さらにその多様性と可能性について理解する。 | | |
| 【学習の内容】 | ロジャースのカウンセリング理論、ジェンドリンのフォーカシング、ナラティブ・セラピー等に見られる特徴と、共通する考え方を理解する。 | | |
| 【キーワード】 | 共感、フェルトセンス、語り | | |
| 【学習の課題】 | 人間性心理学の研究論文を読み、自らの研究テーマへの知見を深める。 | | |
| 【参考文献】 | その都度提示する。 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 本テーマの発表・討議の材料としたい対象論文を選び、準備をすること。 | | |
| 11~15. テーマ | マインドフルネス、森田療法からのアプローチ | | |
| 【学習の目標】 | マインドフルネス及び森田療法の起源と理論について学び、その特徴を理解する。 | | |
| 【学習の内容】 | マインドフルネスと森田療法との共通する考え方を見出し、両方法における課題を考える。 | | |
| 【キーワード】 | 今この瞬間の体験、評価しない、捕らわれない | | |
| 【学習の課題】 | マインドフルネス、森田療法の研究論文を読み、自らの研究テーマへの知見を深める。 | | |
| 【参考文献】 | その都度提示する。 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 本テーマの発表・討議の材料としたい対象論文を選び、準備をすること。 | | |
| 16~20. テーマ | 臨床動作法からのアプローチ | | |
| 【学習の目標】 | 臨床動作法の学びを通して、体験原理と課題解決法の視点を持つことができるようにする。 | | |
| 【学習の内容】 | 臨床動作法の研究成果がどのように臨床に活かされるのかを学ぶ。臨床動作法の技法を体験的に学び、心理臨床における意義を考察する。 | | |
| 【キーワード】 | 動作、体験の内容と様式(仕方)、現実検討、現実感、自己受容感、自体軸感、自己確実感、 | | |
| 【学習の課題】 | 臨床動作法の研究論文を読み、自らの研究テーマへの知見を深める。 | | |
| 【参考文献】 | その都度提示する。 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 本テーマの発表・討議の材料としたい対象論文を選び、準備をすること。 | | |
| 21~24. テーマ | 臨床催眠法の基本的考え方と技法を通して心理臨床を考える | | |

| | |
|--------------|---|
| 【学習の目標】 | 臨床催眠法の理論と技法の学びを通して、心理臨床における無意識的活動と意識的活動の意義を考える。 |
| 【学習の内容】 | 臨床催眠法の研究成果がどのように心理臨床に活かされるかを学ぶ。 |
| 【キーワード】 | 無意識的活動、自発的イメージ展開、無意識的自己理解、自己受容・他者受容 |
| 【学習の課題】 | いくつか提示する最近の論文をあらかじめ読んでくる。 |
| 【参考文献】 | その都度提示する |
| 【学習する上での留意点】 | アタッチメント理論について学ぶだけでなく、考え方を学ぶように。 |
| 25～27.テーマ | 医療・保健分野での臨床心理学研究の問題 |
| 【学習の目標】 | 医療・保健分野での臨床心理学的研究について、最近の動向を学ぶ。 |
| 【学習の内容】 | 文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。 |
| 【キーワード】 | 鬱・不安、統合失調症、生殖医療、終末期医療、新型コロナウイルス感染、慢性疼痛 |
| 【学習の課題】 | 医療・保健分野での臨床心理学研究に関する研究論文を読み、自らの研究テーマへの知見を深める。 |
| 【参考文献】 | その都度提示する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 問題意識をもって議論に参加すること。 |
| 28～30.テーマ | 臨床心理分野での研究上の問題 |
| 【学習の目標】 | 臨床心理の研究における最近の研究動向を学ぶ。 |
| 【学習の内容】 | 文献をもとに、最近の研究成果を学ぶ。最近の介入技法、研究方法を明らかにする。 |
| 【キーワード】 | リモートワーク・リモート授業等に関わる心理的問題、コロナうつ、詐欺被害に関わる心理的問題 |
| 【学習の課題】 | 本テーマに関する研究論文を読み、自らの研究テーマへの知見を深める。 |
| 【参考文献】 | その都度提示する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 問題意識をもって議論に参加すること。 |